

お薬のしおり



No.227 (2021.4)

東京医科大学病院 薬剤部

監修：東京医科大学病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科

スギ花粉症とお薬による治療について

今年もスギ花粉の飛散時期を迎え、花粉症の症状に悩んでいらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。花粉症とは、花粉が原因（アレルゲン）となって起こるアレルギーのことをいいます。鼻アレルギー診療ガイドライン2020によると、日本国内で42.5%の方に花粉症が認められています。また、日本国内で38.8%の方にスギ花粉症が認められたという調査結果も報告されており、花粉症の方の約90%がスギ花粉症であることが分かります。さらに最近の研究から、有病率の増加、特にスギ花粉症の低年齢化も認められています。

●スギ花粉症の症状・診断は？

スギ花粉症の症状は、空気中を飛散している花粉が鼻や目の粘膜に付着することによるくしゃみや鼻水、眼のかゆみ、喉のかゆみやイガイガ感、皮膚のかゆみなどがあります。これらの花粉症の症状により寝つきが悪くなる、夜中に起きてしまうなど十分な睡眠が得られないと、日中に眠くなったり集中力や判断力が低下したりするなど、日常生活に影響を与えることもあります。診断については症状が出る時期や程度、アレルギー歴などについて医師が問診を行い、皮膚テストや血液検査等の結果から判断されます。



●スギ花粉症のメカニズムは？

アレルゲンが鼻腔内の粘膜に付着すると、体内にIgE抗体というものが作られます。このIgE抗体が、アレルギー反応を引き起こす細胞（肥満細胞）と結合すると肥満細胞が活動を始めてヒスタミンやロイコトリエンというアレルギーの症状の原因となる物質を放出します。この2つの物質により、くしゃみや鼻汁、鼻づまりなどが引き起こされます。

●スギ花粉症の治療方法は？

現在用いられているお薬には様々な種類がありますが、一般的には抗ヒスタミン薬やステロイドの飲み薬・目薬・点鼻薬などを患者さんの症状や強さに合わせて使い分けます。また、最近では「アレルゲン免疫療法」という治療方法が行われることもあります。

アレルゲン免疫療法とは、「減感作療法」とも呼ばれ、アレルギーの原因であるアレルゲン（今回はスギ花粉）を少量から投与することで、体をアレルゲンに慣らし、アレルギー症状を和らげる治療法です。アレルギー症状のある疾患のうち、花粉症、アレルギー性鼻炎、気管支喘息などに対してこの治療法が行われています。原因となるアレルゲンを治療に用いるため、原因となるアレルゲンを確定する確定診断が重要になります。アレルゲンの投与方法には、皮下に注射する皮下免疫療法と舌下に投与する舌下免疫療法との2種類があります。皮下免疫療法は注射であるため痛みを伴い、さらに治療のはじめは徐々に増量するため、頻回に通院が必要となります。一方で、舌下免疫療法は、皮下免疫療法のような痛みがなく、自宅での服用が可能です。しかし、治療は毎日継続する必要があり、服用量や服用方法、副作用に対する対応など、患者さんの協力と理解が非常に重要な治療方法です。なお、スギ花粉症の舌下免疫療法に用いられる薬剤として「シダキュアスギ花粉舌下錠」があります。長期にわたり正しく治療が行われると、症状を和らげ抗ヒスタミン薬などの使用量を減らすことや、人によりアレルギー症状を治すことが期待できます。



また、近年では重症・最重症のスギ花粉症に対して、抗IgE抗体である「ソレア皮下注」を皮下に注射する治療を行うことができるようになりました。このお薬は、IgEと肥満細胞が結合するのをブロックしてアレルギー症状が出るのを抑制します。抗ヒスタミン薬に追加して投与することが必要となり、概ね2月～5月の間に、月1～2回皮下注射を行います。また、ソレアによる治療を受けるにはいくつか決められた条件があり、必ずしも希望すれば受けられるという治療ではないことにも注意が必要です。

～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には医師または薬剤師までご相談ください。～